



石をどけながら網を上げる太田さん

伝統ノボリコ漁始まる 日南

河口付近でふ化し、初夏になると潮に乗って川を遡上(そじょう)してくるボウズハゼの稚魚・ノボリコを狙う日南市の伝統漁法「ノボリコ漁」が酒谷川下流で始まった。6月いっぱいまで続く。

ノボリコ漁は晴れた日に行う。朝、川に石で幅2センチほどの魚道を作って網を敷く。夕方まで待ち、網の上に置いた石に張り付くノボリコを一網打尽にする。果内は同川と

同市の広渡川で行われている。

30年来の漁仲間という同市吾田東の那須義春さん(90)と同市北郷町の農業太田祐充さん(78)は8日、酒谷川の2カ所に網を仕掛けた。半日ほど待った後、太田さんが石をどけて網を引き上げると、行き場を失ったノボリコはびちびちと跳ね回った。捕まえた約2匹は知人に配るなどする予定。ノボリコは躍り食いやかき揚げ、卵焼きやすまし汁に

して食べる。
太田さんは「かき揚げが好

きで焼酎のさかなに最高。人にあげるのであまり食べる機会はないけれど」と笑顔。

「以前は網を張る場所をめぐりけんかが起っていた」ほど盛んだった漁の担い手は現在10人を切る。那須さんは「日南といえはノボリコ漁と全国に知られている。太田君にあと10年は続けてもらわない」と期待していた。

(日南支社・矢野大輝)